昭和廿一年六月一日第三種郵便物認可
昭和二十一年十二月十五日　夕刊　いわき民報社　（日曜日）　第二百號

いわき民報

發行所
いわき民報社
平市田町一〇一番地　電話三八一番
編輯兼發行人印刷人　千輝克己
日刊　但シ日曜日を除く
定價一ヶ月 [illegible]

自治の民主化を推進
町村吏員の職員會結成決定

郡町村長會では町村役場に勤務する職員の社會的經濟的地位の向上をはかるとゝもに地方自治の民主化を推進しようと郡下町村吏員をして職員組合を結成することになり十四日準備委員の顔觸れを決定、十六日午前九時から市內第三國民學校で準備委員會を招集、年內結成を急ぐことゝした、總務、厚生、文化の三部門を設けるほか職務遂行のため庶務、税務、戸籍、厚生、勸業、統計、土木各部に亘つての研究部門をも設け、事業としては團体交渉の確立をはじめ町村自治の徹底的民主化、組合員の待遇改善、組合員の福利厚生の爲、種々具体的案をも決定、活潑なる活動を開始することになり各方面から期待をかけられてゐる

▼委員長小泉安雄（小名濱）▼委員橋本勳（渡邊）生田目大次郎（勿來）根本金兵衛（錦）古川竹之助（植田）仲里勝利（湯本）山口謙（鹿島）鈴木巖（豊間）高木力（赤井）鈴木進（好間）

五百圓の枠をはずせ
全遞平勞組行動隊をも結成

全遞平勞組では既報の如く十三日職場大會を開き、斷乎鬪爭に入る旨宣言したが、十四日行動隊を編成、左記七項目を掲げて活潑なる活動を開始した

▼經濟狀勢に適應する最低賃金制の確立▼五百圓の枠をはずせ▼勞協の即時撤廢◆すべての差別待遇撤廢▼特定局制の廢止▼厚生福利教育施設擴充強化▼勤勞所得税の徹廢

越年手當は二ケ月分
嬉しい市の吏員

市では吏員に對する越年手當を支給することになり、十三日の市會で時局特別費（臨時部）で十六萬八千三百四十圓を追加した越年手當は新俸給の二ヶ月分を支給するもので雇員給の下でも月給二百八十圓程度なので先づ五百六十圓、書記の中堅級になると千圓からが新聞で支給されるが、市では極力年末中に支給したいと努めてゐるが、税收入その他の關係から余額はやゝ難しく明春に一部は持越されるのではないかともみられてゐる、何れにせよ市吏員にとつては嬉しいことではある

麻雀
新装コラシ
近日開店致します
平市田町世界舘向
とらや方
平和倶樂部

越冬對策と市民大會
十五日支部長會　十六日は世話人會

越冬物資をよこせと起ち上つた引揚者磐城聯盟では十五日午前九時から市公會堂日本間に支部長會議を十六日午後一時から市役所會議室に各區の世話人會を招集市民大會の日取をはじめ越冬對策を練る

行動隊結成
平驛勞組青年部

平驛勞組では鬪爭態勢をとゝのへるため青年部代表をして十四日行動隊を結成街頭に進出して演説行脚をつゞけることに決した

市民税決定
平均一三圓三〇錢
前年より四圓余增

市の本年度市民税は十三日の市會で委員附託となり審議、十四日更らに特別委員會にかけて愼重審査の結果、平均十三圓三十錢と決定された、前年度の九圓二十六錢五厘に較べ四圓三錢五厘の增額となつてゐる、總額は等割八萬五千圓、資力割十七万圓の總額二十五萬五千圓、資力個數は三萬五千七百八十九個で一個當四圓七十五錢、資納義務者は六千三百五十人となつてゐる

土地改良事業一齊に
十五日に起工式擧行
推進班結成

郡下の土地改良事業實施に基づく職業會支部の緊急協議會は去る十二日午前十時から支部樓上に招集された結果、十五日を期して各町村一齊に起工式行ひ活潑な運動を開始することになり推進班をも結成した

▼第一班泉、勿來、平（村井技手）▼第二班上遠野、入遠野、田人（佐川技手）▼第三班高久、江名、小名濱、夏井（渡邊技手）▼第四班赤井、澤渡、大浦（佐久間技手）

線路工夫轢死

湯本町大字湯本線路工夫宮本高則（二七）は十三日午後六時頃線路を横斷しようとし上り貨物列車に轢殺された

デモ行進等を計劃
社會黨常磐支部が
國民大會に備へて
今日準備委員會

社會黨常磐支部では十七日開かれる國民大會をまえに十四日午後一時から東部平倶樂部に郡內各勞組、日鐵、文化團体等各代表の參集をもとめて準備委員會を招集、十七日のデモ行進その他について具体案を決定、檄を飛ばすことに決した

自動車商工組
陣容成る

組合長大內昌吉氏

平自動車商工業組合の結成式は十三日午後一時から谷川樓に擧行、役員を左の如く決定した

▼組合長大內昌吉（平）▼副組合長深川清（平）▼幹事佐藤夫（平）石川市郎（平）西山啓之助（平）千葉計二（平）大野春吉（小名濱）中川明（小名濱）宮本茂（平）▼顧問大竹平署長、大橋輸送主任、渡邊磐城貨物、野崎常磐交通、鈴木磐城通運金成自家用組合各社長

十四戸八棟全燒
＝平市內白晝の火事＝

十四日午前十一時二十分頃平市六町目九二大塚勳太郎氏（五三）所有の大塚アンプル工場から發火、二十坪の全工場始め八棟十四戸を全燒、午后零時十五分頃鎭火した、原因は同工場の石油バーナから發火と判明、損害目下平署で取調中、類燒者は左の通り

柴川健郎（四〇）會社員、小泊一（三八）飲食店經營、齋藤和吉（四〇）大工、鈴木完治（三五）無職、坂本直子（二七）無職、武田チヨノ（五五）無職、關根清之助（六六）鮮魚商、鶴岡ブル子（五五）無職、稻垣朔臣（四四）生花教授、關根岩女（三〇）會社員、伊藤照一（五〇）日雇業、阿部軍平（六〇）日雇業、鈴木覺治（四〇）市吏員

常備消防強化

十三、四兩日の市會に提案可決された五十四萬八千八十一圓の追加豫算中二万七千七百三十二圓の警防費は警視廳から拂下げの自動車ポンプ一萬五千圓が文化事業後援會から現物寄附になるのでその附屬器品費、被服費雜費として計上されたもので之に依り常備消防は名實共に機能が強化されることになつた

方面委員の表彰傳達式

民生委員への切りかへに依る市の舊方面委員左記二十二氏への表彰狀傳達式は十四日午前十時から公會堂で擧行された

▼田町、清水廣政▼村木町鈴辰次郎▼北白銀小野金太郎▼大窪鈴木榮治▼八幡小路渡邊久▼堤の內田八要吉▼月見町根本一馬▼白銀町吉田喜代治▼上平窪馬目悦吾▼一丁目飯田近治▲二丁目丹野久八▼三丁目大谷武雄▼五丁目井上貞次郎▼新川町松崎長太郎▼鍛冶町伊坂錦雄▼久保町齋木甚平▼古町中野關久▼大工町愛澤カツ▼才槌小路馬場一▼紺屋町小野寬美▼中平窪鶴田庄除▼四ツ波小野雅松

驛賣店へ賊

十四日午前三時頃平驛構內賣店に賊侵入、賣券の煙草その他文房具等六百圓相當を盗まれた

いわきすず言

○市吏員に越年資金が新俸給の二ヶ月分給與と決す、年末にうれしい話、市吏員よ、市民に親切であれ○社會黨常磐支部が十七日の國民大會に市民の行進デモ等を計劃大いにやるべし但しお祭り騒ぎに終らぬやう注意肝要○市青年聯合會成る祝福するが自主的な活動を望むゆめ官製品のレッテルは貼られるな○引揚者磐城聯盟、越冬物資を寄越せと市民大會等を計劃、無理からぬことながら何處までも地道に實の獲得に進め

近火御見舞御禮
此の度は早速御馳付被下消火に御協力賜り御蔭を以て事無きを得ました取敢ず紙上を以て深謝致します
平市正月町一九（電三七〇・四九〇）
磐城自動車工業株式會社
大內昌吉

近火御見舞御禮
十四日遭火事の際は早速御馳付の上消火に御盡力被下御かげ樣で被害を見ず誠に有難う御座いました取敢ず紙上にて厚く御禮申上げます
平市立町一〇六
石坂醫院
石坂銈

近火御見舞御禮
此の度は早速御馳付被下消火に御協力賜り御蔭を以て事無きを得ました取敢ず紙上を以て深謝致します
平市六丁目八
東亞工業所
大竹正吉

近火御見舞御禮
十四日十一時二十分向側出火の際は早速御馳付の上御盡力を戴き御蔭で何等の被害もなく誠に有難う御座いました取敢ず紙上にて御禮申上げます
平市六丁目（電四八五）
さかいや商店
岡崎榮藏

近火御見舞御禮
十四日午前十一時二十分大塚硝子工業會社工場の出火に際し早速お駈けつけお見舞ひを恭ふし消火に御盡力下さいまして厚く禮申上げます
家作五棟類燒致しましたが幸ひ自宅が厄を免れましたことを厚くお禮申上げます
平市立町八番（電四八三）
佐藤榮吉

失火お詫び廣告
十四日午後一時頃當工場の失火に依り市民各位に御迷惑をおかけし殊に類燒家屋多數出しまして誠に申譯無く深くお詫び申上げます
早速お駈付け消火に御盡力下さいました皆々樣に拜趨お禮申上べきの處御芳名洩れも之有不取敢ず紙上を以てお禮旁々お詫び申上げます
平市立町九二番地
大塚硝子工業株式會社

綜合緊急增產協議會

農業會が技術員を召集して

農業會石城支部では十八日午前十時から支部樓上に町村農業技術員及び關係事務擔當者の參集をもとめて緊急增產協議會を召集、開拓事業促進をはじめ自給肥料增產のほか綜合生產計畫、耕地實態調査促進等種々具體案を練る、郡下の開拓狀況は入植五百戸で五ケ年計畫で三千町歩開墾を目指しているが既に一割強の進捗ぶりを示しており殊に川前村小白井、入遠野入城、田人村黒田各部落の成績は目ざましいものがある

勿來町表彰

防犯旬間中防犯協會に協力した勿來町では十三日渡邊刑事協會長から金一封を授與された

花柳病院建設

寄附募集協議

募集標準を決定

花柳病々院建設期成後援會石城支部では十八日午後一時から市公會堂日本間に役員會を開き、資金七十萬圓の募集その他について種々協議、急速に開院を期することに決定したが、寄附は左の標準で募ることになつてゐる

醫師百圓、齒科醫五十圓、藥劑師百圓、産婆三十圓、有産者納税額の二分の一、工場事業主は勞務者一人當二十圓、鑛山全一人當二十圓、風俗業主は從業員一人當五十圓、營業業態者一人當十圓、一般民一人當十錢

徹底的節電へ

五割から八割に及んで

節電運動に乘り出した東配平營業所では產業用を五段階に家庭を三段階に分け五割から八割減の節電に一般の協力をもとめることに決した

賣上百萬圓

田人の當才駒市

田人村黒田の當才駒市は十一、二の兩日開場、出場頭數百二十頭で總賣上九十九万五百圓に達した、最高一萬三千圓で平均八千百十八圓強

◇京染部新設◇

各種見本取揃へました一般染物品染色加工を御用命願ひます

京屋染工場

平市南町大通り

ソ聯からの引揚者

舞鶴港へ入港

ソ聯から舞鶴港への本郡關係引揚者は左の七名と判つた

上遠野八（上遠野村）佐藤宗平（磐崎村）小野作太郎（田人村）豬狩義久（豐間町）平山綾子（永戸村）上遠野善治（泉村）佐藤守（上遠野村）

開放

しようじき

投書を歡迎す　文學批判結構　但し可匿名

▼…十二月ともなれば火事に見舞れ易く稍々もすると枕を高くして眠ることさへ或人にとつてはどうかと思はれる今日近頃、寒晩のやうに九時半になると決つて寒い夜空にこだまする拍子木の音がうつら眠りの枕邊をさまよふのである

▼…この寒い夜道を默々として拍子木を打つ者は一体誰だらうかと思つて早速問ひ合つてみたら、なんとそれは城東文化會奉仕班の仕業であることが分つた、私は今更の如く拍子木にまで文化の力が及んでゐる底知れぬ文化會といふものに感謝せざるを得なくなつた

▼…恐らく拍子木の音が耳に入る人なら誰しも感附いてゐる筈だ。私達はこの拍子木の音に對し單なる感じ方であつてはいけないと思ふ。この拍子木に對しなにものかを持つて酬いなければならぬ

▼…寒いときの仕事は誰しもいやなことだ[illegible]木の音の仕事[illegible]つたその後[illegible]は勿論のこと[illegible]してくれるので[illegible]文化のある、拍子木[illegible]の感酬の誠を紙[illegible]表現するものである（[illegible]）

性病科　内科

矢吹醫院

平市鎌田町　電八二八番

石城郡農民聯合會結成の基本的な理念に就いて

―各農民諸君よりの質問に答ふ―

（3）

折笠藤雄

最後に組織上の形態のことが問題になつてゐる。これに關聯して二三のことがある。植田町添野部落の農民組合が例になる。そして亦、吾々の最高指導者と定されてゐる八代義定氏の鹿島村農民組合の指導形態である「町村といふ行政區域を單位とするよりは部落單位の組織がより活動性に富む」といふ見解である。私は、行政區域を單位とするより以上に部落單位がよいといふ組織理論は一般的に固定せしめてはならないと考へてゐる。これは具体的な問題である「村の民主化、生產の向上と變革、生活の文化的向上、社會的關聯等々が具体的に問題となる植田町添野部落の團結の場合は以上のことが具体的に討議されて、決定した。市街地化した農民組合の場合、この形態は、重要な問題となる。全國會議の場合にも、これに等しい問題が提議されて討議された。府縣の具體的事態によつては、府縣聯合會の外に、郡聯合會の外に郡聯合會体の組織は認められるし、その指導の獨自性もあり得る。日野君などのやうに機械論的農民組織論では、理解出來ないことだ。だが重要なことは、町村は、今の段階にあつては民主革命の第一步にある。既存の行政區――この官僚的、ブルジョア的區劃は、絕對のものでは勿論ないのであるが、これを全々無視することは出來ない。吾々は吾々の組織に於て、この民主革命の成功に近い段階に於て、ブルヂョア的區劃の非合理性を訂正せねばならぬか、それは目前の問題ではない。

次に、この郡部の町村區域は、明治、大正、昭和といふやうに永い間に種々の變遷をうけてゐる。「部」もさうである。これは何故か？簡單にいへば資本主義的發展と資本主義的政治行政の必要さに應じて變化した。田人村は四ケ村が合併された。これはあの尨大な森林政の發展に應じたものである。平市と平窪村との合併、小名濱と玉川村の合併これらは、市街地の膨脹――[illegible]にその商業的發展が、跛行性を帶びて來て、然らしめたものである。そこには現實幾多の矛盾が生じてゐる。生活協同体とか、自治体制とか言はれて美化されてゐる。然し現在の經濟的基礎はこの美しさを破壞してゐる農村に在つてもこの如くない歷史から生じた地主的封建的觀念として「村内の一致」とか「圓滿」とか、「協力」とかいはれてゐるが、これは多く現狀の方が都合のよい反動的な地主的觀念に基く場合が多く、惡を惡として徹底的な行爲を欠いて來た日本民族の島國的弱点に幸した主流の經濟であつて、眞の協力体は、矛盾を斬ちきつてゆく勤勞民主々義の彼方にのみ建設されることは、疑ふべくもないことだ。

以上で第一回準備會以後吾聯合會準備會を支持してゐる熱心なる、而も充分指導的能力ある同志諸君より質問に答へたのであるが、然し凡ての理論は灰色である、そして生活の黄金樹は綠色である、といふことを忘れるならば、一つの理論はすぐ我を墓場に導くのである。終りに私は同志諸君に吾々以外からの[illegible]すべき批評を公開しよう、それは、石城郡農民聯合會は、確かに獨創的であり現實的だが内容は玉石混淆ではないか？といふ批評である。所が、それはその通りである。然しそれはやむを得ない。吾々は政[illegible]をつくるのではないばかりでなく、大衆組織の第一歩の宿命的過程である。然し吾々はそこに立ち止つてゐるものではないことを斷言する。日本民族更生の爲の、日本の村の新生の爲に[illegible]農民指導を排除し自ら組織と團結を持つた農民主義こそ評價さるべきだ。而して農民戰線は正しく統一されねばならぬ。現實と運動と鬪爭は、吾々を鍛錬するであらう。何人が落伍し何人が[illegible]に傑れた人として民と共に在るかは、勤勞農民の生活的現實的大衆的立場からのみ決定的批判をうけるのである。信頼なる同志諸兄の鍛鬪を期待して擱筆する（昭和二一、一二、八）

麻雀クラブ

湯本町三座前

開花莊

文化

タイピストの話

高橋正雄

八重子の最初の戰災を受けたのは本所も深川も一面に燒野原と化した三月十日だつた兄も八重子も生れ育つた家だけに馴染の深い玄關であり床柱であつた。その家が瞬間にして灰と化してしまつた。それはかりではない八重子は着てゐた冬服と防空衣の外は本口に入れてあつたアルバムと本が一冊化粧具を除いて總てを失つてしまつたのである。

その夜は京成電車の土手に老いた母と兄と三人で一夜を明かし次の日牛込の親戚へ轉込んだ[illegible]い時には仕方のないもの[illegible]の家を[illegible]込の[illegible]の家も[illegible]けてしまい[illegible]八重子は[illegible]だつた方々[illegible]見した時八重子は[illegible]けないだらう[illegible]女[illegible]の胸をなで下ろしたのであつたが二度ある事は三度あるとのたとへの通り十月下旬燒け出されてしまつた。寄る邊の無かつた八重子は會社の同僚の故鄕に身を寄せ[illegible]その土地は炭礦町だつた町全体が炭塵によごれゐて八重子は何か嫌だつたが仕方なかつたのである。隣近所の挨拶も終へると今度こそ再出發のスタートを切るのだと八重子は自分で自分に言ひきかせて動[illegible]の門をくゞつた八重子は前の會社で事務員として勤める傍らタイピスト所に通つてゐたのでタイピストを希望してゐた、然し田舍町にはタイピストを使ふ會社はなかつた挺身隊として炭礦に徵用されなければならなかつたの八重子は無理をしても會社の事務員を希望し續けてゐた。挺身隊の口は一つもなかつた？挺身隊の美名の蔭に働く暗い話題は八重子にはたへられなかつた。終戰が來た。八重子はとう／＼運命に勝つた。自分の心懸けた通り生活する事が出來たのである。八重子は今[illegible]町の會社で元氣にタイプのキーを叩いてゐる

◇女給募集◇

カフエー

うらら

小名濱町

[illegible]

努力と技術が賣ります

眼鏡

專門

各眼鏡調整指導

玉屋

[illegible]一丁

新設電話一〇一番

進む文化に[illegible]る努力

御宮と神具

歳末用品・正月用品　際物玩具

其他あらゆる百貨一式入荷

百貨卸問屋

平市六丁目（電話485番）

さかいや商店

新設

◇小型自動車修理部

ダットサン

ダイハツ

マツダ

くろがね

[illegible]商會

電八六四番

帽子ノ仕立ヘ

專門ノアラキ

小切デ利用シマセウ

ハンチング・登山帽

野球帽・作業帽（戰鬪帽）

學生帽・リックサック

スキー帽・ランドセル

大口ハ特ニ御相談ニ應ジマス

湯本町上九八

中ノ寺ワキ

新井帽子專門店

カフエー

殿堂

マツバ

◎美[illegible]女給

◎至急[illegible]用

[illegible]

小名濱町濱町